今を生きる一瞬

a2200518　小室　千恵美

○制作意図

人生はいつか終わってしまう。限られた時間の中で人はたくさんの出会いを繰り返し、別れていく。そして出会った人たちと共に学び生活し、様々な経験をする。しかし、その時間はいつまでも続くものではなく、人生のうちでもごく限られた時間である。なぜなら、人はそれぞれ違った道へと進んでいくからだ。そして、また新たな出会いで、周囲の環境が変化し、自分自身も変化していく。

あなたは毎朝、鏡に写る自分がどう見えるだろうか？いつも通りの自分、疲れ気味の自分、嬉しそうな自分。きっと見るたびに違った自分がいると思う。制服を着ていた私も、気づけば成人式の着物姿をしていた。鏡に写る二十歳の自分も年月が経つ度に変化していくのだろう。この姿も、この時にしかいない自分なのだ。

常に終わりに向かって変化していく人生の中、今日の今この瞬間を大切にして欲しい。ほんの些細な事であっても、その瞬間はもう二度と戻ってはこないからである。「自分と他人との人生が重なり合う今」と「今の自分」、限りある「今」の美しさを見つめて欲しい。このことから、「今」を生きる一瞬の大切さを表現する造形作品を制作した。

○デザイン

・人型…限りある時間が人にまとわりつき、ひっそりと、常にある恐怖のイメージ
・鏡面…今を写しだし見つめる意味
・加飾…様々な人生の重なり合いのイメージ

○制作工程

1、原型製作
2、外側の布着せ
3、金網の隙間を埋める
4、固め
5、内側の布着せ
6、鏡面部分の板の製作
7、台の製作依頼
8、鏡面部分の板と本体を接合する
9、接合部分を埋める
10、鏡面部分の板を木固め
11、鏡面部分に錆付け
12、外側の布、下地（一回目）
13、鏡面部分下塗り、中塗り
14、内側の布固め
15、鏡面部分上塗り
16、外側の布、下地（二回目）
17、外側の布、下塗り、中塗り、上塗り
18、加飾
19、鏡面部分胴摺り、呂色磨き
20、完成

2006年度 卒業研究ゼミ発表要旨集

○考察と感想

大きさに苦戦しました。まず、金網を胎としたのでとても重く、一人で持ち運ぶのは不可能なほどでした。作品を展示する際に、溶接された鉄の土台が必要となり、鉄工所の方に依頼し制作しました。また、今までの作品の中で、経験したことが無いほど大量の漆を消費し、塗る面積も広いため予想以上に時間がかかってしまいました。そして、完成出来るかどうか焦ってきてしまい、精神的にも苦しい思いをしました。

しかし同時に、大きい作品を作る楽しさを味わえました。下地はヘラでつけるよりも、滑らかな表現がし易いと思い、手でつけていきました。続いての研ぎ作業では、研ぎ粉が空気中に舞い、手も顔も真っ黒になりました。また塗りでは、出来るだけ埃を付けないように塗るため、いつも以上に緊張しました。そして、自分の思い描いていた作品が、目の前で完成に近づいていく瞬間がとても嬉しかったです。

この会津でたくさんの人と出会い、学び、漆芸に触れ、手で作る喜びを知ることができたことを誇り思います。これからもこの思いを大切にし、ものを作っていきたいと思います。